

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2023年12月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏躍動の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

僧俗一致・異体同心の  
団結

年間実践テーマ

① 勤行・唱題の徹底で活動  
の充実

自分自身が日々納得  
のできる勤行・唱題を

② 破邪顕正の折伏で誓願  
達成

御聖意を拝し、身軽法重  
死身弘法の決意に立つ

③ 寺院参詣と登山推進で  
人材育成

『金沢の抜け参り』のお  
姿を忘れず寺院参詣・  
御登山の推進を強化

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(電話番号：0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>



2023年11月26日宗祖日蓮大聖人御聖誕八百年慶祝記念登山の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

## ① 講中のみなさまへ「折伏とは人への施しの力」

私たちは生きる力を頂いて生きている。大聖人は富木殿の夫人に一通のお手紙を差し上げた。そこには「矢が飛ぶのは弓の力により、雲のゆくは竜の力、男の働きは女の力による」(御書955)と富木殿の下総(千葉)から身延への歩みはあなたの力であり、夫を見れば妻が見える、と夫人の力を讃歎された。妙法の御本尊は十界衆生の苦しみを生きる歓喜に変え救済する。第65世日淳上人はある論文の中で「一心に只仏を祈ること、それでいいのである。行者の願に一として叶わざるなしとの御金言そのままに仏に祈ればいい、妙法の功力に勝るものがないからである。信行は事実であり、実在である。されば利益も実在である」と仰せになった。実在する信行を貫き、頂く力に感謝し、その頂いた力を他人のためにも使う。それは折伏という人への「施し」であることを信じ行動しよう。

## ② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その40)

「創価学会破門通告書」の『第三 創価学会の信仰上の違背』  
「創価学会では、このように本宗の化法・化儀を破壊しているのですから、当然、その信仰面においても、本宗の信条に違反していることは明らかであります。

(一)かつて池田氏が、「われわれが登山して、大御本尊を拝することは、そのまま日蓮大聖人にお目通りすることであり、偉大なる功德を享受できる」と述べているように、創価学会は、これまで総本山を根本として登山参詣し、本門戒壇の大御本尊を信じ、その大功德に浴してきたからこそ、今日の大発展があったのであります。しかるに、現在、池田氏をはじめ、創価学会員のほとんどは、総本山への登山参詣をせず、信仰の中心道場たる総本山外護の任を放棄しております。これは、池田氏らが敬虔な信心の基本を失った証拠であり、多くの信徒の罪障消滅と現当二世の功德成就の道を閉ざす大謗法であります。

(二)本宗の各寺院は、それぞれの地域における大法弘通の法城ですから、本宗の信徒であるならば、所属の寺院に参詣して仏道修行に励むことが大切であります。ところが、創価学会は、寺院参詣を志す純真な信徒の参詣をも阻止していると見られ、現に、ほとんどの創価学会員が、所属寺院に参詣していません。さらに、創価学会員は、創価学会を脱会しようとする人や、脱会して法華講員・各寺院直属の信徒となった多くの人々に対して、さまざまな手段を使って、執拗に圧迫を加えております。これらのことは、日蓮正宗の正しい信仰をしたいと願う、信徒の純真な信心を妨害するものであり、まさしく大謗法の行為であります。(次号に続く。「③正しい信仰」の項はしばらくお休みとなります)